

総領事からの活動報告(2012年1月後半)

平成24年1月
在マイアミ日本総領事
川原 英一

1月後半の当館の活動から、以下をご報告申し上げます。

マイアミ・ヘラルド紙のイヤーウッド国際編集デスクとの懇談

1月19日午後、イヤーウッド編集デスク、ミミ・ホワイトフィールド経済記者など3名の方をお招きして、イヤーウッド氏が1月末から(日本)フォーリン・プレスセンター(FPC)が実施している先進国記者招聘事業で訪日する前の機会に、当方から日本の政治経済事情の説明や、最近の共和党大統領候補予備選などについての意見交換を致しました。

イヤーウッド氏は、3.11の東日本震災・津波の被災地の視察や東京での外務大臣への取材を予定していますが、通常国会が1月24日から開かれているので、玄葉外務大臣へのインタビュー時間を取るのには難しい様子ですが、質問の機会があれば、最近の日本外交戦略、日本と中南米との関係、福島出身で大臣であることに注目した質問を希望しており、調整中です。日本での良い取材ができることを期待しております。



バイオリニスト大津純子さん等との懇談



1月23日、バイオリニストの大津純子様御夫妻とピアニストのコフマン教授(フロリダ・アトランティック大学音楽部)を公邸にお招きしました。10数年前から、大津さんは、冬は、フロリダ州ウェスト・パーム・ビーチに滞在し、春と秋は、日本での公演を行い、夏は、NYを拠点に音楽活動をされているとお話でした。コフマン教授(ロシア出身)もボカロンに居住されて、ここ4-5年は大津さんと室内音楽演奏会活動を共にされております。山口元在マイアミ総領事の頃、公邸でのミニコンサートで御二方が演奏されたことがあるとお話でした。

コフマン教授は、ロシア移民であり、2歳でマイアミに移住して、奨学金でマイアミ大学音楽学部を卒業された方です。大津さんとの懇談の際、東日本大震災1周年に因んで公邸で実施予定の追悼及び復興のための式典で、被災者追悼のため東北民謡をバイオリンで演奏して頂く申し出を頂けました。1月29日、マイアミ市内にあるセント・マリー大聖堂でお二方による日本支援チャリティー



コンサートがありました。ベラチーニのラルゴ、南部牛追い歌、サラサーテのスペインダンスなど1時間ほどの演奏があり、透明感のある素晴らしい音色の演奏に魅了された観客からは、演奏終了後、何度も拍手・大喝采が起きました。

世界的な統合的水資源管理の先駆者・中村先生の当地来訪



1月20日午後、世界の湖沼地帯の統合的水管理について第一人者である中村先生(滋賀大学特任教授)が、当地での講演及びフロリダ州水資源管理当局との懇談のため、マイアミにお越しを頂きました。当地2大学での講演の際、お世話になったフロリダ国際大学(FIU)とマイアミ大学教授も御一緒に懇談が出来ました。中村先生は、滋賀県にある世界湖沼環境委員会基金で活動されておられます。日本国内でも、統合的水資源の管理に関する重要性への理解が深まり、統合的アプローチへの考えがまとまり、統合的水資源管理の基本法(「水循環基本法」)が、近々、国会に上程される運びになったとのご説明がありました。こうした基本的な枠組みを定めた国内法が出来ると、これまでのセクター別の国内水資源管理から統合的水資源管理に移行でき、かつ当該分野での国際的な人材育成などが促進される環境が整備されるようです(右上写真の左から3番目が、中村教授)。これまで、国土交通省、農水省、環境省などが、セクター毎の水資源管理を行っており、こうした状況が続けば、持続可能な水資源管理上の弊害も発生するとのご指摘でした。先進国間での水資源管理の経験・情報の交換を促進し、水資源の枯渇が深刻化しているアジア・アフリカ途上国での持続可能な水管理についての支援体制の整備、そのための人材育成などで、日本は、UNDPや世銀基金からの拠出プロジェクトを実施して、世界の取り組みの先駆者としての役割を果たし続けている、との良いお話を伺いました。

中村教授は15年前にもフロリダ水資源管理の調査で来られたことがあり、資源管理関係者とのネットワークを今後さらに強化したい趣旨の御発言もありました。

■コーラル・パーク教区関係者・マイアミ補習校関係者との懇談

1月25日(水)、マイアミ補習校が校舎をお借りしているコーラル・パーク教会付属学校のヘルナンデス牧師、同教区事務責任者の方々と出村マイアミ補習校運営委員長、大抜校長先生他をお招きして懇談を行いました。毎週末の補習校での約130名の児童生徒のための授業、その他学校活動のため、教室及び付属施設を、快く提供頂いていることに対し、当方から深甚なる感謝の言葉を申し上げました。当地の日本人コミュニティーが、児童生徒の日本語教育ために熱心に補習校を運営している姿勢に感心されており、同教区関係者から暖かい理解と支援を示されています。お蔭様で過去10年間、学校施設の提供を頂いております。海外帰国子女体験、フロリダと日本の姉妹都市交流、JETプログラムで大多数の若者が日本で英語教師としての活躍中、森上美術館・庭園での諸行事、3.11後の米国による対日支援、米国への日本桜寄贈100周年の話し等が話題となりました。



パルメット高校を訪問

1月27日、マイアミ市の南にあるパルメット高校を訪問しました。同校で7年間日本語を教えておられるアベロ先生のクラスの一つ(レベル2)を参観し、その後、ハーレイ校長先生と懇談を致しました。日本語クラスの生徒さんによる書道と音楽を組み合わせた大変ユニークなパフォーマンスを中心にした授業で、当方と生徒との質疑応答も楽しませて頂きました。また、その後に懇談しましたハーレイ校長先生は、22年間教職にあり、中学校校長などを経験されていますが、2900名を超える生徒数のマンモス高校の校長として、昨年、赴任されたばかりです。同校は、日本語・日本文化のAPプログラム(一定以上の成績を収めた生徒には大学単位として認定される学校制度)も持っており、注目されます。また、毎年、マイアミ市の姉妹都市である鹿児島市からの中学生達による学校訪問を熱心に受け入れ頂いています。大変にレベルの高いことで有名な公立高校です。当方から、同校の日本語コースについて引き続き学校側の支援と、さらなる発展を御願い申し上げます。(写真:右がハーレイ校長先生)



三堀・森上副理事長の生け花50周年デモンストレーション



1月30日、森上美術館内シアターにおいて三堀草月流理事による生け花デモンストレーションがあり、当方も御招待を頂きました。

50年間にわたり、当地で生け花を教えておられる三堀千栄子・森上副理事長による華麗で見事な生け花デモンストレーションを拝見する機会がありました。

三堀副理事長は、アレンジをしながら、大変にわかりやす

い英語での解説をされておられました。日米の文化・慣習の違いなどをユーモアに富んだ語りとアイデアに富んだ数々の生け花作品を仕上げられ、観客からは大いに魅了されて、感嘆の声があがり、終了後には、大きな拍手が沸き起こりました。



基金派遣の折り紙専門家が当地巡回

1月29日から当地の高校や大学で日本の折り紙に関するワークショップを実施頂くために国際交流基金派遣の折り紙専門家3名(代表:山口 真氏)に当地を巡回訪問頂きました。当地の高校やFIUなど大学でのデモンストレーションとワークショップは大変に好評でした。1月31日、折り



紙ワークショップの受け入れに熱心な私立ノバ・サウスイースタン大学国際関係専務理事のデナポリ氏、レオン同大学公共図書館サービス専務理事の2名もお招きして懇談しました。折り紙「Origami」は既に世界で共通に使用される名称となっており、日本と同様、米国や英国にも折り紙協会があり、数千名の会員組織があるそうです。山口代表は、誰にでも同じように作ることができるよう、わかりやすく折り紙についての本を書いてみたところ、大変に好評で、これまでに80冊の折り紙に関する著書を出しておられます。(左写真の右端が山口代表、その隣はデナポリ氏)

同席頂いたデナポリ専務理事は、観光やアジアの大学との連携活動の途次に日本を度々訪問したことがあり、昨年3.11の大震災・津波のニュースを知って、日本支援の義援金活動を大学内で行って頂いて、当館とのお付き合いが緊密となりました。日本文化の受け入れには極めて関心が高く、今回のような日本文化関連活動の開催には、大変熱心にお手伝いを引受けて頂いており、大学付属の中高校生多数が今回のワークショップに参加してくれました。(了)